

愈

愈は、△と舟と川の合字です。現在の「月」の部首には「月」のほか「肉」の変形したもの(にくづき)と、「舟」の変形したものとあります。「前」という字の月はやはり舟の意味の月です。

△は、32 頁の兪の△、「集合」の意味の部首です。“川に舟がたくさん集まっている”ことを表わしたのが**愈**です。“舟で物を運ぶ”の本義です。音は舟シュウですが、つまってシュ、今はさらに省略されてユと発音されます。

輸は、“車で物を運ぶ”という意味で、舟で物を運ぶ意味の愈に車を加えて作られました。「輸送」は、車で荷物を運送することで今も昔も変わりませんが、今の「輸出」や「輸入」は「愈出」「愈入」の方が字義に合っていますね。これからは、車を除いて使おうではありませんか。ついでに言いますと、「舶来」という言葉は“船舶で運んで来た”という意味の字で、今の「輸入」と全く同じ意味の言葉ですが、この方が。“ふね”という字を使っているだけ、正しい使い方をしていると言えます。

諭は、“人を言葉で運ぶ”という意味の字です。道理のわからない人、間違ったことをしている人を、正しい道へ移るよう、よく言葉をつくして“さとす”ことです。説諭。小学校から高校までの先生を“教諭”というのは、生徒をりっぱな人に導くため、**教えさとす**役目を持っている

からです。

愉は、“人の心を望む所に運ぶ”という意味の字です。従って“気持が良い”“たのしい”ことです。愉快。

愈は、愉と同じ、愈と心との会意形声字です。この字は“心が前進する”という意味で、舟が前へ前へと進むように、心の働きがだんだんとりっぱにたることを表わした字です。“りっぱである”という意味と、“ますます”という意味とあります。

癒は、病気がなおって、気持良くなることです。治癒、快癒。

瘡、病気を向こう岸に渡すという意味の愈と疒とで病気の「なおる」意味を表わしています。癒と同じように使います。

諭は、論と全く同じ意味で出来た字です。従って、“さとす”が本義ですが、教えさとす場合に用いる“たとえ話”の意味に使うことが多いようです。比喻。

覷は、舟をあやつる時には、絶えず水路の状況を見ていなければなりません。それで、愈と見とで、“様子をうかがう”“のぞき見る”という意味を表わしました。

愈は、“物を運び去る人”という意味で、“ぬすびと”を表わした字です。音は、舟シュウがなまったチュウ、またはトウ。「愈安」は一時の平安をむさぼって努力しないことを言います。

踰は、舟でなくて“足で歩いて川をわたる”ことから“渡る”“越す”という意味です。音は愈ユ。